

文化財センター通信

【かぎぐるま】

風車

第 34 号

平成19年3月30日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター



粉河寺遺跡現地説明会 第4回 歩いて知るきのくに歴史探訪

—西国三十三箇所観音霊場 第三番札所粉河寺を歩く—



発掘調査現地説明会をはじめ、粉河寺縁起、粉河鋳物師や大門の解体修理を通じて判ったことを解説し、普段、一般の方は登ることのできない大門にも登っていただきました。参加者の一人は、「もつと堅苦しい話ばかりかと思っていたけれど、わかりやすく楽しく話をしてくれ、



粉河寺 大門

平成18年12月2日(土)紀の川市にある粉河寺で、「粉河寺遺跡現地説明会 第4回歩いて知るきのくに歴史探訪—西国三十三箇所観音霊場 第三番札所粉河寺を歩く—」を實施しました。当日は、小雨が降り、非常に寒いという悪天候の中、多くの方にご参加いただきました。



文化財センター 仲原知之
「平成13・14年発掘の遺物解説」



文化財センター 鳴海祥博
「粉河寺大門見学」



紀の川市文化財保護委員 岩鶴敏治氏
「粉河鋳物師・十禅律院宝鐸など
見学・歩きながらの解説」



文化財センター 佐々木宏治
「粉河寺遺跡発掘調査現場
現地説明会」

とてもおもしろかった。来て良かった」と話してくれました。いにしえの人の心と技に触れることのできた半日だったのではないでしょうか。

(松山)

—第34号の主な内容—

1. 第4回 歩いて知るきのくに歴史探訪
—西国三十三箇所観音霊場
第三番札所粉河寺を歩く—開催
2. 粉河寺境内案内図
(きのくに歴史探訪当日配布資料の一部)
3. 粉河寺遺跡発掘調査概要

粉河寺境内案内図

主催 (財) 和歌山県文化財センター

※2006.12.2(土)実施 現地説明会配布資料

共催 紀の川市教育委員会・(社)和歌山県文化財研究会那賀支部 / 後援 粉河寺

粉河寺

粉河寺は、紀ノ川中流に位置する寺院で、伝記(「粉河寺大卒都婆建立縁起」天喜2年(1054)頃制作)によると、その成立は宝亀元年(770)、紀伊国の獺師大伴孔子古の創建とされる。11世紀頃から始まった西国三十三所観音巡礼の第三番札所であって、第一番那智青岸渡寺、第二番の紀三井寺とともに紀州の三大霊場の名刹である。古くから天台宗に属していたが、現在は粉河観音宗として独立している。本尊は千手観音。天正13年(1585)羽柴秀吉による紀州攻めの際に境内が焼き討ちにあう。現在の境内を構成する建築群の大半は、元和2年(1616)、正徳3年(1713)の火災以後漸次整備されたものである。

【引用文献】 粉河寺2002『重要文化財粉河寺大門修理工事報告書』

／ 安藤精一編1981『和歌山県の文化財 第2巻』(清文堂出版) / 和歌山県教育委員会1999『和歌山県文化財ガイドブック』

本堂 <重要文化財>①

地元の粉河の工匠により享保5年(1720)に再建された建築。

平面は凸字形で、向拝をつけ、外観は前部単層入母屋造、正面に千鳥破風を構える。向拝に軒唐破風を飾り、後部は重層入母屋造、正面に軒唐破風を飾る。前部の棟飾りは、後部の前通りが左右に延び、入母屋造二棟が重複した形状をしている。内陣の厨子には秘仏の本尊千手観世音菩薩を祀る。

大門 <重要文化財>②

宝永4年(1707)造立。境内の大型建築の中では唯一の正徳3年(1713)の火災以前の建築。三間一戸楼門、入母屋造、本瓦葺で、正面実長約12.5mに及び、組物は一階・二階とも斗と肘木が一体となった雲肘木状の組物を用いる。一階正面両脇には金剛力士像を安置。

中門 <重要文化財>③

天保3年(1832)に造立。三間一戸楼門、入母屋造、本瓦葺出、正面と背面には唐破風をつける。一階正背面両脇間に四天王像を安置する。「風猛山」の額は紀州10代藩主徳川治宝の直筆。

千手堂 <重要文化財>④

宝暦10年(1760)、本堂の復興が完了した後上棟した宝形造、本瓦葺の三間堂で、正面に一間の向拝がつく。本堂と同じく粉河の工匠の手になる。正面に千手観世音菩薩、両側には紀州歴代藩主とそのゆかりのある人々の位牌を安置。

童男堂 <県指定建造物>⑤

本坊入口の右手に建ち、粉河寺縁起絵巻にも登場する千手観音の化身とされる童男大士を祀る。三間四方の正堂の前方に五間二間の礼堂を設け、奥行き一間の合ノ間で継ぐ。もとは方三間堂であったが、延宝7年(1679)に礼堂と合ノ間を増築し、宝暦5年(1755)に現状のような屋根に変更された。

十禅律院 <県指定建造物>⑥

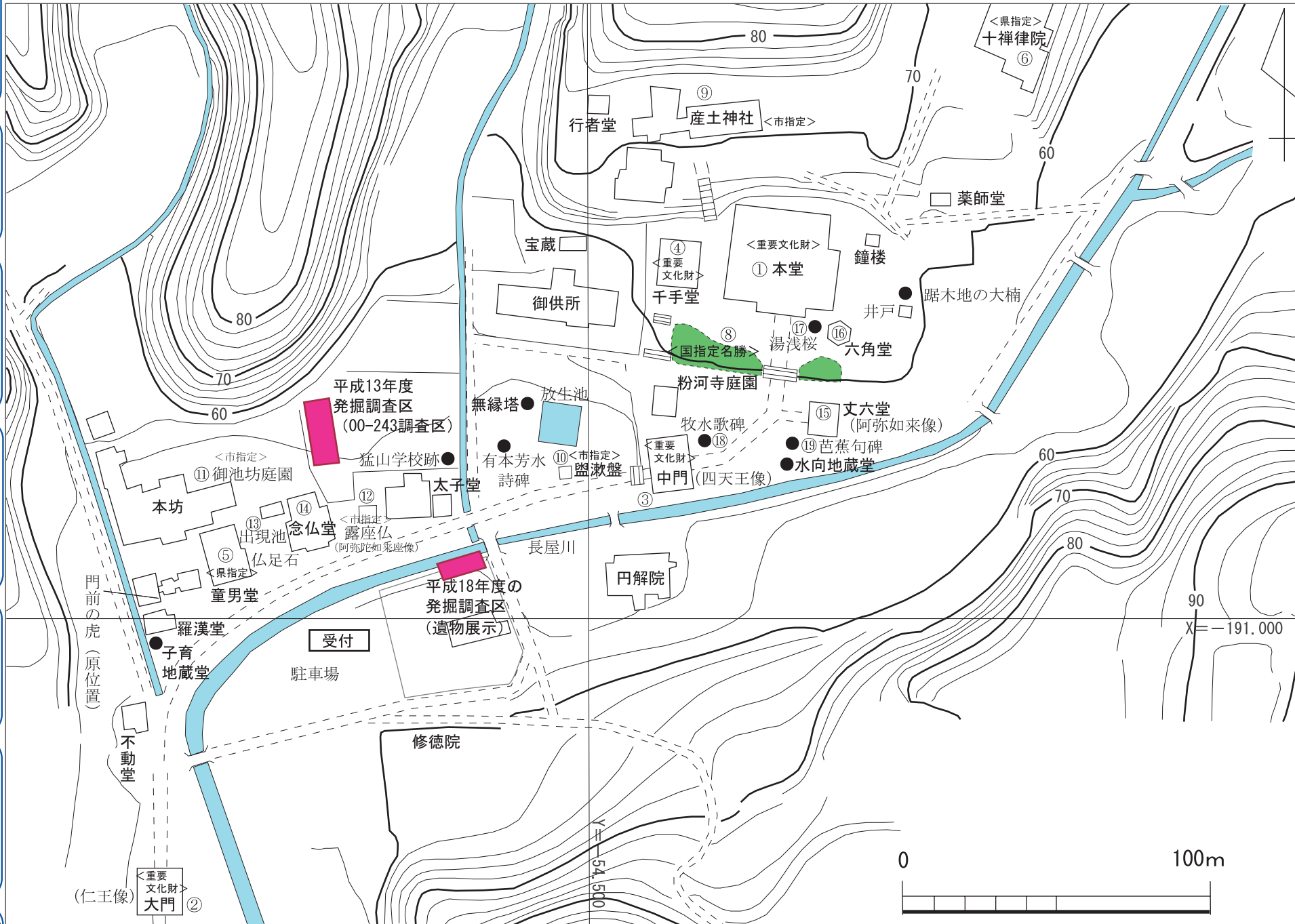
天台宗安楽律院派。紀州8代藩主徳川重倫と10代藩主治宝の親子が帰依した寺。本堂・庫裡・護摩堂・塗上門が県指定(文政年間建築)。枯山水式の石組みを配置した十禅律院庭園(洗心庭)がある。

紙本着色粉河寺縁起 <国宝>

鎌倉時代。縦30.8cm・全長19.58m。天正の兵火によって巻初部と上下部を損傷。内容は観音出現の話と、河内の長者の話とが、詞書4段・絵5段に分けて描かれている。信貴山縁起絵巻に次いで古い初期縁起絵巻の逸品で、製作は12世紀頃という。

大門橋高欄宝珠 <県指定工芸品>⑦

慶長10年(1605)銘。大門橋の欄干に残存する高欄宝珠11個が指定。



粉河寺庭園 <国指定名勝>⑧

本堂は中門前の広場より一段高い所に建ち、約3mの高低差がある。ここに石垣の代わりに巨石を用いて石組をなし、蘇鉄、もみ、紅葉、さつきなどを植え庭園とする。雑賀崎の青石(緑泥片岩)、琴浦の紫石(紅簾片岩)、龍門山の龍門石(蛇紋岩)などの紀州の名石を巧みに配した枯山水の豪快な名園。作庭年代は桃山時代~江戸時代初期といわれていたが、発掘調査の結果、現在の庭園は本堂再建時に一体として造営された可能性が考えられるようになった。

産土神社 <市指定文化財>⑨

旧粉河村の総鎮守と同時に粉河寺内の鎮守である。丹生都姫命・天忍穂耳命を祀る。本殿二社・天福社一社からなり、天福社の擬宝珠に享保12年(1727)銘がある。

盥漱盤 <市指定文化財>⑩

安永4年(1775)粉河鑄物師蜂屋五代目源正勝作。高さ240cm・幅185cm。荷葉鉢とも。

粉河寺御池坊庭園 <市指定文化財>⑪

江戸時代初期の池泉鑑賞式庭園。非公開。

露座仏 <市指定文化財>⑫

文久2年(1862)。阿弥陀如来座像。

出現池⑬

本尊千手観音の化身童男大士が柳の枝を手に白馬に乗りこの池より出現したと伝えられる。

念仏堂⑭

寛政11年(1799)建立。

丈六堂⑮

文化3年(1806)建立。丈六の阿弥陀如来像を安置。昭和57年(1982)解体修理。

六角堂⑯

享保5年(1720)建立。西国三十三観音を安置する。平成7年(1995)解体修理。

湯浅桜⑰

紀州湯浅の住人藤原宗永が本寺の本尊、千手観音のおかげで本堂の辰己(東南)の方向に桜を植えたときれている。

牧水歌碑⑱

「粉河寺 遍路の衆の打ち鳴らす 鉦々きこゆ 秋の樹の間に」

芭蕉句碑⑲

「ひとつぬきて うしろにおひぬ ころもがへ」

猿岡山城跡⑳

境内南側の秋葉山山頂に築かれた山城。羽柴秀吉紀州攻め後の天正15年(1587)に家臣藤堂高虎によって築城。高虎が宇和島藩へ移った際に廃城となる。現在、城跡の痕跡はなく、山頂に秋葉神社の小さな社殿が建っている。

(財) 和歌山県文化財センター 作成

粉河寺遺跡発掘調査の概要

第4回歩いて知るきのくに歴史探訪の様子について説明してきましたが、現地説明会の時点では、調査地点の全容がまだわかっておりませんでしたので、ここではその後の発掘調査でわかったことを簡単に紹介します。



調査前まであった石垣

現在の石垣（左写真）は、西側と東側で傾斜が異なっていました（西側65度、東側71度）。また、西側の石垣の基底部には胴木（土台となる木）が置かれているのに対し、東側

にはないことから、両者は別の時期に積まれたと推定できます。その後関係は残念ながらわかりませんが、出土遺物からどちらも江戸時代後半以降に造られたものと考えられます。

この石垣を取り除き、整地された土などを掘り下げたところ、長屋川左岸の護岸・土留め施設と考えられる4段の石積遺構（左写真）が見つけられました。最下段基底部から最上段上端部までの高低差は約4mありま



検出した4段の石積



西側で検出した階段の痕跡？

す。各段の石積残存高さは50cm前後がほとんどですが、1m近い高さが残っている部分もあります。

いずれも砂岩を主体（部分的に緑泥片岩も使用）とした野面積みと呼んでいる石積み方法ですが、石の大きさがばらばらで、石の間に土が詰められた部分があるなど非常に雑な印象を受けます。

また、残存状態は良くありませんでしたが、調査区西側で川へ降りるための階段と考えられる部分（右写真）を検出しました。石が抜けているところが多くてわかりにくいと思

いますが、前面（川岸）に緑泥片岩の板石が4枚ならべて据えられており、この背後には、東西幅4m弱の間隔をあけて、階段状に石が連なっている様子が確認できました。造られた時期については遺物整理後の判断になりますが、現地調査終了時点では、出土遺物などから室町時代に造られたものではないかと考えています。（佐々木）

《編集後記》 発掘調査づくしの一年が終わろうとしています。来年度も風車やホームページで、より多くの調査成果をお知らせできるようにがんばっていきたいと思います。（佐々木）

風車 第34号

平成19年3月30日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel : 073 (433) 3843

Fax : 073 (425) 4595

e-mail : maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp